

[課程—2]

審査の結果の要旨

氏名 高野 範之

本研究は大腸内視鏡検査における盲腸到達率および盲腸到達時間、並びに大腸ポリープ発見率に関わる因子の検討を行うため、5591 症例の大腸内視鏡検査の解析を行っており、下記の結果を得ている。

1. 検査全体での盲腸到達率は 96.5%であり、各背景因子毎の盲腸到達率は、多変量解析にて患者背景因子のうち、男性で有意に高く、検査条件のうち、鎮痙剤(臭化ブチルスコポラミン, グルカゴン)の使用、大腸内視鏡先端フード(透明フード, 黒フード)の使用、良好な腸管洗浄の群で有意に高いことが示された。
2. 大腸内視鏡検査件数が 3000 件未満の初級者における盲腸到達率は、多変量解析で患者背景因子のうち、男性、若年、高 BMI の群で有意に高く、また、検査条件のうち、大腸内視鏡先端フードの使用、良好な腸管洗浄の群で有意に高いことが示され、初級者においては若年、高 BMI により影響を受けることが示された。
3. 大腸ポリープの発見率は単変量解析で患者背景因子のうち、男性、高齢、高 BMI の群で有意に高く、検査条件として、大腸内視鏡先端フードの使用、良好な腸管洗浄の群において有意に高かった。また、多変量解析では、男性、高齢、高 BMI、良好な腸管が大腸ポリープ発見に関連していることが示された。

4. 部位別の大腸ポリープ発見率の向上に関する各背景因子の検討では、左側結腸では右側結腸と比較して、大腸内視鏡先端フードの使用及び良好な腸管洗浄との関連が認められた。

以上、本論文は大腸内視鏡検査における盲腸到達に関する各背景因子及び大腸ポリープの発見に関する各背景因子を示した。本研究は大腸内視鏡検査における盲腸到達及び大腸ポリープ発見の向上に関して、重要な貢献を成すと考えられ、学位の授与に値するものと考えられる。